（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろ　城山台			
○保護者評価実施期間	2025年　5月　1日	～	2026年　3月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○従業者評価実施期間	2025年　5月　1日	～	2026年　3月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校・家庭との連携学校や家庭と情報を共有し、子どもの状況に応じた支援を行っている。	送迎時や日々の記録を通して、学校生活や活動中の様子を共有し送迎時には、学校での生活の様子や体調、気分などを保護者と共有し、日々の記録を通して、事業所での活動内容や参加状況、他児との関わり、できたことや気になる様子などを具体的に伝え、家庭との連携を図っている。	学校・家庭との連携を深め、生活全体を見据えた支援につなげる。学校や家庭との情報共有を積極的に行い、学校生活や家庭での様子、本人の成長や課題を共有しながら、それぞれの状況や支援方針について共通理解を深め、日常生活全体を見据えた継続的で一貫性のある支援につなげていく。
2	子どもの主体性を育てる支援 事業所の強み子どもの意思を尊重し、自分で考え選択する力を育てている。	興味や発達段階に応じて活動を提案し、段階的に取り組めるよう支援し一人ひとりの興味や関心、発達段階に合わせた活動を提案し、無理なく参加できるよう配慮しながら、個々のペースに応じて段階的に取り組めるよう支援している。	自己選択や自己決定の機会を増やし、主体的な行動につなげる。活動内容や遊び、過ごし方などについて、子ども自身が選んだり決めたりできる機会を積極的に設け、自分の思いや希望を表現する経験を重ねながら、自信を持って主体的に行動できるよう支援していく。
3	多様な活動を通した社会性の育成 事業所の強み集団活動や地域での体験を通して、社会性や生活する力を育てている。	外出活動や公共施設の利用を取り入れ、他者との関わりや社会経験を広げている。外出活動や公共施設の利用を通して、地域の人々や他者と関わる機会を設け、公共の場でのルールやマナーを学びながら、社会経験や生活の幅を広げられるよう支援している。	地域の行事や公共施設の利用、地域の人々と関わる機会を積極的に取り入れ、さまざまな社会経験を積みながら、地域とのつながりを深め、子どもたちの社会参加につながる活動を充実させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門機関との連携 事業所の弱み児童発達支援センター等から専門的な助言を受ける機会が少ない。	専門機関との連携方法や相談機会について十分に把握できていない。専門機関との連携方法や相談できる機会について、職員間での情報共有や理解が十分ではなく、具体的な相談先や連携の進め方について把握できていない部分がある。	関係機関への相談や研修参加を通して、専門的な支援体制の充実を図る。関係機関との相談や情報交換を積極的に行い、必要な助言や専門的な知識を支援に取り入れるとともに、職員の研修参加を通して知識や技術の向上を図り、子ども一人ひとりの特性や発達に応じた支援体制の充実につなげていく。
2	地域の関係機関との協議 事業所の弱み自立支援協議会等への参加ができていない。	開催情報や参加方法について十分に把握できていない。 開催時期や内容、参加方法について十分に把握できていないため、行政に確認を行い、地域の関係機関との情報共有を進めながら、参加に向けた体制を整えていく。	行政へ参加方法を確認し、地域の関係機関との情報共有を進める。行政に開催内容や参加方法について確認し、地域の関係機関と情報交換を行いながら、地域の取り組みや活動への理解を深め、積極的な参加につなげていく。
3	保護者同士の交流機会 事業所の弱み保護者同士が交流できる機会が十分ではない。	保護者が参加しやすい交流の場を設けられていない。 保護者同士が交流できる機会を十分に設けられていないため、12月に予定している交流の場を活用し、保護者同士が情報交換や悩みを共有できる機会をつくり、つながりを深められるよう支援していく。	12月に予定している交流の機会を活用し、保護者同士のつながりを支援する。12月に予定している交流の機会を活用し、保護者同士が日頃の悩みや子育ての情報を気軽に共有できる場を設け、交流を深めながら互いに支え合える関係づくりを支援していく。